旭区社協インフォメーション

令和2年度 事業報告

推進の柱 1●地域の福祉力アップ
推進の柱 2●安心して自分らしい生活ができる地域づくり
推進の柱 3●地域の取組で元気力アップ

推進の柱1 **「地域住民が主役となり地域課題に取り組むための基盤をつくる」**ために、関係機関・団体と連携し、地区社協や各種団体への情報提供や助成、活動場所の提供等の支援を行いました。

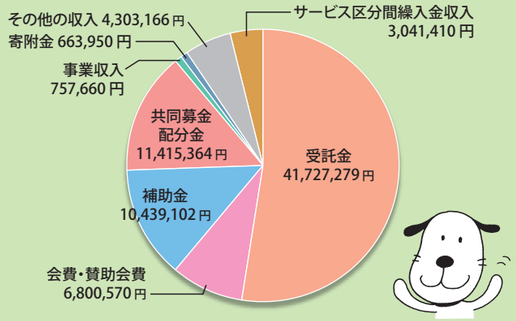
推進の柱2 **「支援を必要とする人が的確に支援へつながる仕組みをつくる」**ために、通常の相談対応に加え、コロナによる生活困窮世帯への生活福祉資金特例貸付の受付等により相談支援を行いました。さらに、生活にお困りの世帯へ食糧提供を通じた生活支援や地域とのつながりづくりを推進しました。

推進の柱3 **「幅広い市民参加から地域福祉保健の取組が広がる仕掛けをつくる」**ために、ボランティアセンターの運営や福祉教育（啓発）の推進、地域人材の育成を目的とした講座の開催等に取り組みました。

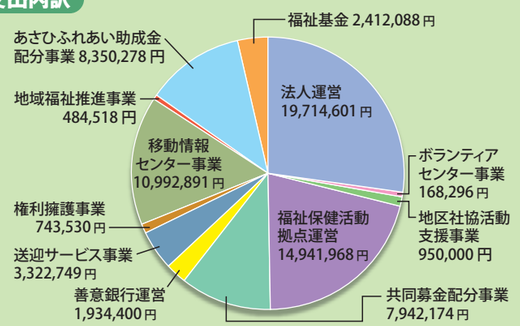
令和2年度 決算報告

当期収入合計	79,148,501円
当期支出合計	71,957,493円
前期末支払資金残高	11,440,923円
当期末支払資金残高	18,631,931円

収入内訳



支出内訳



インフォメーションの詳細については、旭区社協のホームページをご覧ください。 旭区社協

令和2年度 共同募金報告

令和2年度共同募金寄付金総額
18,879,818円
赤い羽根募金・・・・・・・13,090,876円
年末たすけあい募金・・・5,788,942円

令和2年度に集まった募金は令和3年度に使われます。
赤い羽根募金のうち5,030,309円が、**年末たすけあい募金5,788,942円全額**が旭区社会福祉協議会の事業費として使われます。今年も皆さまのご支援をよろしくお願いいたします。（募金は任意です。）

旭区社会福祉協議会では、共同募金配分金を次のような事業で活用しています。

<赤い羽根募金>
- あさひいきいき宣言（旭区社協だより）の発行　237万円
- 地域福祉計画の冊子作成　128万円
- あさひふれあい助成金　67万円
- きらっとあさひ福祉大会　41万円
- ジュニアボランティアの文集作成　25万円

<年末たすけあい募金>
- 地区社会福祉協議会活動費助成金（19地区）　498万円
- 福祉団体助成金　58万円
- 食料支援、低所得者支援　22万円　など

善意銀行に寄付いただいた方々 〈順不同・敬称略〉

令和3年1月1日～5月31日

次の皆さまから善意銀行へご寄付いただきました。ありがとうございました。

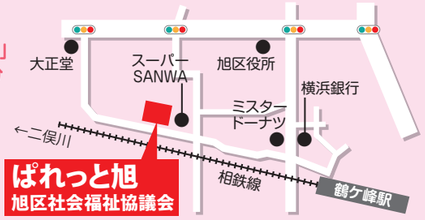
（金品寄付）荻窪 邦昭／ヨガサークル ロータス／近藤 和義／ひよどり食卓応援団マミー・令和2年度今宿小学校6年3組／旭区女性団体連絡協議会／(株)坂本興業／匿名3件

（物品寄付）神奈川県理容生活衛生同業組合旭支部

善意銀行とは、皆様からの善意の寄付金品をお預かりし、必要なところ、または希望された区内福祉施設や当事者団体、地域福祉活動団体などへ配分し、皆さまの善意を広げていく事業のことです。

発行 社会福祉法人 横浜市旭区社会福祉協議会
〒241-0022 横浜市旭区鶴ケ峰1-6-35
TEL：045-392-1123　FAX：045-392-0222
http://www.palletasahi.jp/ 旭区社協

●アクセス●
相鉄線「鶴ケ峰駅」北口より徒歩8分



令和3年8月1日発行
No. 107

旭区社協だより あさひいきいき宣言

共に支えられ 生きていく

http://www.palletasahi.jp/ 旭区社協

「お互いさま」の気持ちで 地域のみんなが笑顔に！

「食品等無料頒布会および生活相談会」の取り組み

コロナ禍が長引くことにより、
経済的な困りごとや不安を抱える人々が増えています。
しかし、このような時だからこそ、「お互いさま」の気持ちが大切なのではないでしょうか。
今回は、地域で行われた取り組みを通して、
地域の皆さんが前向きに、笑顔になることができた事例をご紹介します。

地域共生社会を目指して
共に支えられ 生きていく
横浜市旭区社会福祉協議会

地域共生社会の実現に向けて

詳しくは中面へ

「お互いさま」の気持ちでみんなが笑顔に！

「食品等無料頒布会および生活相談会」の取り組み

この取り組みは、地区社会福祉協議会の「生活にお困りの方をなんとかしたい」という気持ちがきっかけでした。その思いが実現し、3月には万騎が原地区で、6月には二俣川地区で、多くの方の協力により、開催にいたりました。ここでは頒布会に関わった人々の気持ちの変化を通して、この取り組みを振り返ります。

運営スタッフの気持ち

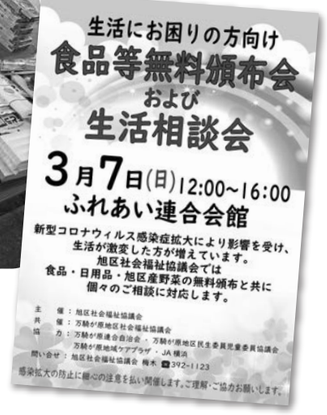
新型コロナウイルス感染拡大の影響により、生活に困りごとを抱える人が多くいると、ニュース等では聞いていました。自分たちでも何かしたいと思って、今回の取り組みになりました。品物を買って届けてくれる人もいて「何かしたい」というお気持ちの方がたくさんいることがよく分かったし、うれしいことだと思いました。

万騎が原地区社協 会長
石原　泉さん

寄付した方の気持ち

- 「支援イベントを企画してくれてありがとう」と思いました。自分でも何かできることがあればやりたいと思っていたので。
- 万騎が原に生活にお困りの方がいるとは思いませんでした。
  困った時こそ、お互いに助け合えればと思います。

ご寄付された
食材や日用品の数々



参加者の気持ち その1

- みなさん、とてもあたたかく、受け取りやすかったです。本当にありがとうございます。
- 自分でいただきたいものを選ばせてもらえたのがよかったです。
- すごい量で驚きました。半信半疑で子連れで来ましたが、連れてきてよかったです。
- 地域のお祭り等も中止になり、楽しみが減っていましたが、元気が出ました。
- 子育てのことで誰にも相談できず悩んでいましたが、話を聞いてもらい、気持ちが軽くなりました。

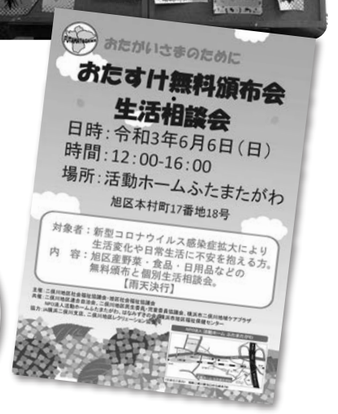
他地区の人の気づき

両地区が実施した頒布会には、他地区からの多数の視察もありました。

「困りごとを抱える方は旭区にもいるのか」「こういったやり方があるのか」という気づきにつながりました。

参加者の気持ち その2

- ありがとうございました。
  一人でがんばらなくてもだいじょうぶなんだとあたたかい気持ちになりました。
- 今日はたくさん食べ物をいただけて感謝しています。
- 心がこもったイベントで、すごく温かかったです。
- お野菜等頂けてとても助かりました！
- 地域のたすけあいの気持ちが嬉しい気持ちになりました。



困りごとを抱える方の中には「地域の方に声をかけられない」「相談ができない」という方が多くいると聞いています。こうしたイベントを通して、例えばご近所の方とあいさつしたり、「お醤油が足りないんだけど、分けてもらえない?」という声をかけあえる関係を目指していきたいです。それこそが、地域共生社会の実現に向けた第一歩だと考えます。

今後も住みよい二俣川地区になるように、自治会町内会も地区社協も一緒に協力していきたいと思います。

二俣川地区社協 会長 **内田 紘司さん**

万騎が原地区から始まった取り組みは、その思いが二俣川地区に引き継がれ、8月には上白根地区での開催に広がり、さらにいくつかの地区で実施が検討されています。「お互い様」の気持ちが広がり、みんなの笑顔が旭区に広がっています。